

試験日 : 2025 年 11 月 9 日 (日)

入試種別 : 3 年次編入学・転入学試験

学部・研究科: 文学部 歴史学科 文化遺産学専攻

科目名 : 専門科目

解答又は解答例

1

①古墳時代にみられる墳墓の一形式で、後方の円丘に前方の方形部が接続し、平面形が鍵穴形を呈するものをいう。名称は、江戸時代に蒲生君平が『山陵志』で「前方後円」と表現したことに由来する。一般に後円部に埋葬施設が設けられ、前方部は祭祀の場と考えられているが、諸説ある。前方後円墳は日本列島各地に分布し、その総数は約 5,000 基に及ぶ。規模や形態には時代や地域による多様性がみられ、当時の政治・社会構造を考えるうえで重要な資料となっている。

②江戸時代の建築として現存最大規模を誇る御影堂をはじめ、京都三名閣の一つに数えられる飛雲閣、豪華な装飾彫刻で知られる唐門のほか、阿弥陀堂や書院などの国宝建造物が伝わり、「古都京都の文化財」の構成資産として世界文化遺産に登録されている。美術工芸品では、宗祖親鸞の肖像（鏡御影）や熊野懷紙、三十六人家集などが国宝に指定され、このほか重要文化財も数多く所蔵する。これらは浄土真宗の歴史と日本文化の発展を伝える貴重な文化財である。

③ユネスコに登録されている日本の無形文化遺産は 23 件を数える。その内容を見ると、能楽や歌舞伎、文楽、雅楽などの芸能分野が最も多く、和食や伝統的酒造りといった社会的慣習、和紙や伝統建築工匠の技などの伝統工芸技術も含まれる。現在は、書道や神楽などについて登録に向けた準備が進められている。無形文化遺産には、文化財を保存・継承するための技術である選定保存技術に該当するものも含まれ、その内容は多岐にわたる。

2 文化財の科学的調査は、歴史的価値の解明や適切な保存・修復に必要な情報を得ることを目的とし、基本的に文化財を傷つけることなく情報を取得できる非破壊の方法で行われる。例えば、X 線透過撮影は彫刻や絵画、工芸品などの内部構造を調べる方法であり、木材の接合方法や修理の痕跡、内部に納められた納入品の有無などを明らかにすることができる。また、蛍光 X 線分析は文化財を構成する元素を測定する方法で、顔料や金属の成分を特定し、制作技法や材料の産地の推定に役立つ。さらに、

年輪年代法は木材の年輪パターンを分析して伐採年代を推定する方法であり、建造物や木彫像の制作時期を考えるうえで重要な手掛かりとなる。年代推定を目的とした調査には、放射性炭素年代測定もある。このほか、赤外線撮影や紫外線撮影によって肉眼では確認できない下描きや修復箇所を発見することも可能である。近年では三次元計測技術も発達し、文化財の形状を高精度で記録・保存し、複製製作にも活用されている。